

平成27年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		評価日	平成28年3月1日	評価日	平成28年3月10日
						分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者(いずれかに○) 学校運営協議会 学校評議員	学校関係者評価による意見
1 確かな学力	絵本を活用した教育活動	・日常の保育の中での、子どもの姿や行事に沿った絵本の読み聞かせ ・園だよりでの絵本紹介 ・「親子で絵本」活用	・保育の記録(週案の書き込み) ・全家庭の「親子で絵本」の実践結果	・「親子で絵本」の活用は、十分に活用できている家庭とに分かれた。	⇒	・保護者・教員共に、絵本を活用した教育活動への意識は高い。 ・「親子で絵本」の活用は、保護者によって意識の差が大きい。日々の啓発が必要である。 ・担任が、一人一人の子どもの思いを読み取り、寄り添おうとする姿勢が保護者に伝わっている。	・絵本を活用した教育活動の推進を今後も続けていく。 ・「親子で絵本」を十分活用してもらえるよう、保護者啓発を工夫したり、保育で読んだ本を紹介したりして保護者の意識を高めていく。	⇒	・親子一緒に家庭で過ごしても、我が子をきちんと理解し、十分な触れ合いができるとは限らない。
	教育活動・教育環境の充実	・保育の振り返りの充実 ・園内研修の充実 ・園だよりによる発信	・担任は子ども一人一人をよく理解して指導や援助をしているか	「そう思う」と答えた保護者の割合99%		⇒	⇒	⇒	・我が子と触れ合う時間は、短くても充実したひと時にすることが大切である。
2 豊かな心	人と親しみ、かかわりを深める力の育成	・『ごっこ遊び』に視点をおいた園内研修の充実 ・幼稚園きょうだいの取組	・エピソード研修や研究保育 ・子どもは友達に思いを伝えたり聞こうとしたりしている	「そう思う」と答えた保護者の割合98%	⇒	・ごっこ遊びを通して、友達とかかわって遊ぶ楽しさを味わい、友達の思いを聞くとする態度が育ってきている。 ・子どもの飼育活動への意識は高く、栽培し収穫したり、園で調理して食べたり、遊びに使ったりする経験は、身近な植物に対する興味や関心の高まりに大きくつながっている。	・友達とかかわる中で、自分の思いと葛藤したり、共感したりする場を意識してつくる。 ・植物の生長をより身近に感じられるような環境づくりや活動を工夫する。	⇒	・昔と今では家庭の価値観の違いがあり、大事にしているものが変化している。
	体験活動を通じた健やかな心の育成	・小動物や小さな生き物の飼育 ・季節を通しての栽培活動や収穫、食育	・子どもは身近な動植物に興味・関心をもったり、大事にしようとしているか	「そう思う」と答えた保護者の割合96%		⇒	⇒	⇒	・成長を見据え、褒める時にしっかりと褒め、叱るべき時にきちんと叱ることで、幼児期に身につけるべき規範意識をしっかりと育てたい。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	・幼稚園生活におけるリズムを整える ・日常保育の中での声	・持ち物の始末や着替えをきちんと最後までやりきろうとしているか	「そう思う」と答えた保護者の割合82%	⇒	・基本的生活習慣の確立は子どもの発達年齢に合わせた取組が重要であり、家庭でのとらえ方に差があることも評価の低下的要因となっている。 ・健やかな体の育成については、教師も保護者も取組の成果を感じている。	・発達年齢に応じ、整理整頓された環境づくりを行い、気持ちの良さを感じられるよう援助する。 ・子どもが安全に体を動かすことができる環境を、子どもの姿に合わせて再構成すると共に、安全指導も行う。	⇒	・後期評価が前期よりも若干下がっていることは、自我の発達からくる葛藤など、子どもの内面の育ちの影響と捉えることができる。 ・地域での保護者(特に母親)の交通マナー(自転車)が気になる。
	健やかな体の育成	・日常保育の中での体を動かす経験の充実 ・保育環境の見直し	・子どもは体を動かして遊ぶことが好きであるか	「そう思う」と答えた保護者の割合97%		⇒	⇒	⇒	・数値の変化だけにどらわれず、その裏側にある背景を読み取る。 ・1学期早期に保護者への交通安全啓発をすべきである。
4 独自の取組	小・中・家庭・地域との連携	・小学校、中学校との交流保育 ・地域行事運営の教職員の参画と子どもの参画	・幼稚園は小学校や中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしているか	「そう思う」と答えた保護者の割合97%	⇒	・小学校や中学校との交流については継続した取組が理解され評価につながっている。 ・地域との繋がりも大事にしてきていることが、行事や式典等での協力体制につながっている。	・小学校や中学校、地域との充実した連携の継続をはかる。 ・ホームページの更新回数が低下しているので更新を心掛ける。ホームページや降園時の話、園だより等で小中との交流について発信していく。	⇒	・園長の、伝えよう応えようという姿勢が保護者に伝わっている。 ・創立120周年記念式典の成功や地域防災訓練では中学生に付き添われながら避難するなど、他校種との連携や地域との交流のアピールの場になった。
	情報発信の充実	・降園時の話 ・積極的なホームページの更新 ・園だよりの充実	・ホームページの更新状況 ・園の教育方針や子どもの活動の様子は伝わっているか	・「そう思う」と答えた保護者の割合100% ・後期のホームページ更新回数は80回程度。保護者から更新回数の低下的指摘あり。		⇒	⇒	⇒	・これからも保護者の思いに丁寧に答えるよう努めてほしい。 ・様々な保護者に対し、園の教育方針を大事に対応していく。

4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力の育ちにつながる、子どもが絵本に親しむための取組として、「親子で絵本」を保護者に十分に活用してもらえるよう検討し、啓発に努めたい。
- ・アンケート項目については、子どもの育ちの把握や課題を見出すための指標として、適切な内容かどうか十分に検討していくことが必要である。また、保護者や地域の方の意見を取り入れ、様々な視点から評価していくたい。
- ・子どもの姿についての情報発信や保護者からの質問や要望などに丁寧に答えてきたことが、保護者の幼稚園や教職員に対する信頼感や教育方針の理解、推進、幼稚園教育への高い参画意識につながった。
- ・今年度、創立120周年記念事業の取組したことにより、地域とのつながりや支援体制の充実を幼稚園と保護者が改めて感じることができ、本園の特色としてもアピールできた。